

平成10年(1998年)8月25日  
第113回『21世紀塾』参考資料  
(第7回提言)

## 大場川を「神川」と呼び直そう

『21世紀塾』代表世話人 小野 徹

### 【問題提起】

大場川を「神川(かながわ)」と呼ぶ人がいる。

特に、旧市内の年配者の中には、昔、慣れ親しんだという懐かしみを込めて、「神川」と呼ぶ人が多い。

「神川」――実に響きの良いネーミングであり、字面を見ても三島大社との関係を彷彿させるものがある。

しかし、この「神川」の名称は、現在は地図上のどこにも記載されていないし、呼称としても失われようとしている。

『三島市誌(増補)』によれば、

――箱根外輪山の山伏峠付近を水源とする「境川」は、三島市と裾野市の境界部分を流下し、三島市徳倉地方で(裾野市から来る)泉川を合わせて後に、流下方向を転じ、三島市街地東部(駿東郡長泉町・清水町との境界部分)を南流して、三島市御園付近で狩野川に合流する河川である。

(三島市徳倉の青木橋で別れた、もう一方の「境川」は)市街地東部の壺町田から加茂川町付近では、「賀茂川」あるいは「神川(かむかわ)」と呼称され、三島市大場付近では「大場川」と称されてきた。

とある。( )は引用者。

この裏付資料である寛政の地誌『豆州志稿』によれば、

――賀茂川 竟川ノ分流ナリ、今訛リテ神川ト呼ブ徳倉、一丁田、川原ケ谷、谷田、中村、北澤、多呂、諸村ヲ過ギ大場、中島、両村ノ間ニ至リ大場川ト云 とあり、「賀茂川」が訛って「神川(かむがわ)」になったと考えられているが、実際、その少し後の文化年間の古地図には、はっきりと「神川」の名称が記され、かなり昔からこう言い習わされていたことがわかる。

ところが、この「神川」の名称がいつの間にか大場川の名に統一されてしまった。

この変の事情を、秋津亘氏は『三島いまむかし2』の中で、

――さて昭和三十年、中郷村との合併のとき、川の名前は大場川となった。もともと大場川という名は「北澤、多呂、諸村ヲ過ギ大場、中島、両村ノ間ニ至リ大場川ト云」の記述のように、北沢以南における古くからの呼び名だった。

狩野川合流点に近い大場川という名称のほうが、河川工事などで行政的にもなじみがあり、川全体の名として加茂川より適当とされたのだろう。

と説き明かしている。

経過はたぶんその通りだろうが、一方でこの「神川」は単にノスタルジアをかきたてるだけの名称ではなく、現に「神川橋」も、「上神川橋」も、「下神川橋」も、「神川！」に架かっているのだ。

ところで、「水の都・三島」の意味するところは「ゆうすい」、もしくは「ゆうすいの流れる川」で、「ゆうすい」こそが、三島を三島たらしめている原点であることは論を待たない。

しかし、「歴史の街・三島」も、さらに大きな三島の顔であり、かつて東海道一の宿場を誇った三島の、まさに天下の険・箱根からの玄関口に位置する「神川」には、上流から順に「神川橋」「月見橋」「祇園橋」「上神川橋」「下神川橋」「新町橋」「雪沢橋」「錦田橋」と、これ以上は望めない素晴らしいネーミングが並んでいる。だから、

――まずは、手始めに、大場川の上中流部を、普通「神川！」と呼ぼう。

――呼ぶだけでなく、三島の散策地図にも、国土地理院の大地図にも、大場川の横に、カッコ書きで「神川！」とつけるよう運動しよう。

――ついでに、近ごろ流行のカーナビにも、「神川！」の名を入れてもらおう――それにふさわしいネーミングなのだから。

三島を、より三島たらしめるために、大場川を「神川」と呼び直そう。――今ならまだ間に合う。